

## 吉田治弘教授 履歴・業績



## 吉田治弘教授 履歴・業績

### [履 歴]

1947年 8月 香川県三豊郡仁尾町（現三豊市）にて出生

### [学歴・職歴]

1971年 3月 東京農業大学農学部畜産学科卒業

1973年 3月 東京農業大学大学院農学研究科修士課程修了

1973年 4月 東京外科内科病院付属腎センター入職（～1974年 3月）  
（東京医科大学外科学教室移植研究室研究生）

1974年 4月 自治医科大学医学部助手（法医学教室）（～1983年 3月）

1980年10月 東京農業大学大学院研究生

1982年 3月 東京農業大学大学院にて学位取得（農学博士）

1983年 4月 自治医科大学医学部講師（法医学教室）（～1987年 3月）

1987年 4月 専修大学法学部助教授（～1993年 3月）

1993年 4月 専修大学法学部教授

1996年 3月 オーストラリア・クイーンズランド大学客員教授（～1997年  
3月）

2018年 3月 専修大学法学部 定年退職

### [所属学会]

1982年 4月 日本法医学会評議員（～2012年 3月）

1987年 4月 日本分析化学会電気泳動分析研究懇談会常任委員（～2012年  
3月）

1989年4月 日本比較臨床医学会評議員，理事，監事現在に至る

## [業 績]

### [著書]

『比較血液型学』（共著），「ウマの血液型；63-93，モルモットの血液型；280-289，ラットの血液型；290-299」裳華房，1985年

### [原著論文]

「ニホンウズラにおけるアルビノおよびシルバー羽色の遺伝に関する研究」  
『東京農大農学集報』17：121-125，1972年

「ニホンウズラに関する生理遺伝学的研究」（東京農大大学院，修士論文），  
1973年

「肺保存の実験的研究」『移植』8：312-322，1973年

「動物血球に対する植物性凝集素の反応」『畜産の研究』29：1537-1543，  
1975年

「イタドリの葉の抽出液中にみられる植物性沈降素」『医学と生物学』90：  
265-267，1975年

「ニホンウズラにおける血清アミラーゼアイソザイムの変異」『日本家禽会  
誌』12：67-70，1975年

「植物性凝集素と沈降素，特に免疫学的活性と免疫化学的性質」『ABRI』  
4：1-4，1976年

「ブタ抗Q凝集素活健の多様性について」『日畜会報』47：411-417，1976年

「根菜類の植物性凝集素に関する研究(1) 凝集素の検索について」『東京  
農大農学集報』21：121-127，1976年

「動物血清および血色素溶液と植物抽出液との沈降反応」『畜産の研究』  
310：1003-1004，1976年

「Au 抗原感作ヒツジ血液に親和性を有する植物性凝集素」『医学のあゆみ』  
100 : 443-444, 1977年

「根菜類の植物性凝集素に関する研究 第2報 ジャガイモ抽出液とウマ  
赤血球の凝集反応」『東京農大農学集報』22 : 155-158, 1977年

「根菜類の植物性凝集素に関する研究 第3報 ジャガイモ抽出液中のウ  
マ赤血球凝集素の血清学的検討」『東京農大農学集報』22 : 159-163,  
1977年

「植物性凝集素によるウシ血液型の分類法」『ABRI』5 : 10-12, 1977年

“Immunological Aspect of the K; L Ratio for Immunoglobulins in Normal  
Sera of the Japanese.” 『Jpn. J. Legal. Med.』31 : 110-113, 1977年

“Polymorphism of Genetic Markers in Serum, Hemoglobin and Isoenzyme of  
Beagle bred in Japan.” 『Jpn. J. Vet. Sci.』39 : 587-591, 1977年

「チューリップ球根凝集素のヒツジ赤血球に対する親和性」『日畜会報』  
49 : 506-509, 1978年

“Discovery of a Lectin with affinity for the HBs antigens.” 『Vox. Sang.』  
34 : 22-24, 1978年

「チューリップ球根の植物性凝集素を用いたヒツジの血液型分類について」  
『日畜会報』50 : 276-279, 1979年

「クサギ種子植物性凝集素によるイヌの血液型分類について」『獣医畜産新  
報』691 : 85-87, 1979年

「医用実験動物としてのイヌの血液型—特に B, C および L システムにお  
ける表現型出現頻度と遺伝子出現頻度—」『医学のあゆみ』113 :  
1034-1038, 1980年

「ウマの So 式血液型の遺伝学的研究」『東京農大農学集報』25 : 128-134,  
1980年

「ウマの So, ヒツジの T, 犬の C 式血液型における表現型の出現頻度と遺

- 伝子頻度」『ABRI』9：54-57, 1981年
- 「種豚精漿蛋白の各種電気泳動法による泳動像について」『家畜繁殖誌』  
27：149-152, 1981年
- 「植物性沈降素を用いたブタ精漿中の蛋白沈降因子の識別」『家畜繁殖誌』  
27：161-163, 1981年
- 「植物性凝集素の反応に関する血液型学的研究」(東京農大大学院, 博士論文), 1981年
- “Blood Group, Serum Protein and Red Cell Enzyme polymorphisms among the Japanese Population in Nichinann-chou of Tottori Prefecture.”  
『Jichi Med. School J.』4：47-52, 1981年
- “Gene Frequencies of Blood and Salivary Polymorphisms in the Japanese Population of Kohama Island.” 『Jichi Med. School J.』4：53-58, 1981年
- “Genetic Studies of New blood Group C system on Red Cells of Beagles.”  
『Jpn. Vet. Sci.』43：429-431, 1981年
- “Untersuchungen über das Pflanzenagglutinin in Hackfrüchten. -Vertilung des agglutininaktivators in Kartoffeln-” 『J. Agri. Sci.』Tokyo Nogyo Daigaku. 26：1~8, 1981年
- “Genefrequencies of Blood polymorphisms among the Japanese population of the Iriomote Island.” 『Jichi Med. School J.』5：145-148, 1981年
- 「Tf (BD) 型の遺伝」『医学と生物学』105：17-19, 1982年
- 「SDS—電気泳動法によって検出されるイヌ血清蛋白質の多型」『日畜会報』53：85-88, 1982年
- 「マメ科種子に含まれるウシ血液型特異的植物性凝集素の検索」『日畜会報』53：844-845, 1982年
- “Genefrequencies of Blood polymorphisms among the Japanese Population in Chizu-chou of Tottori Prefecture.” 『Jichi Med. School J.』5：

149-151, 1982年

“Lactogen-like Substance in the serum of Pregnant Monkey.” 『Jpn. J. Vet. Sci.』 44 : 835-837, 1982年

「タイショウキントキの植物生凝集素によるウシの血液型分類について」  
『ABRI』 11 : 47-53, 1983年

「沖縄県竹富町および栃木県住民の血清 Tf 型の重型」 『医学と生物学』  
106 : 297-300, 1983年

“Immunological analysis of Human Placental Lactogen in Blood Stains and  
its Application to Forensic Science.” 『Forensic Sci. Int.』 21 :  
149~152, 1983年

「Monoclonal およびヒト由来の anti-A, anti-B のヒトと動物赤血球に対す  
る抗体活性の比較」 『医学のあゆみ』 128 : 102-104, 1984年

「ヒト精漿酸性蛋白質の個体差」 『医学と生物学』 109 : 263-265, 1984年

「細管式等速電気泳動法によるウマ血清トランスフェリン型の判定につ  
いて」 『日畜会報』 55 : 978-980, 1984年

“Transformation of Blood Group Antigens and Releasing of Amino acids  
induced by Dispase Treatment.” 『Jpn. J. Legal Med.』 38 : 1~4, 1984年

“Application of Monoclonal Anti-A and Anti-B Antibodies to the Blood  
Stains.” 『Jpn. J. Legal Med.』 38 : 302-305, 1984年

「隠岐島住民の赤血球酵素型の遺伝的多型性について」 『医学と生物学』  
110 : 245-248, 1985年

「細管式等速電気泳動法による正常ヒト白血球及び白血病細胞の抽出液の  
分析」 『生物物理化学』 29 : 267-270, 1985年

「水棲哺乳類の赤血球酵素型及び血清蛋白質型」 『医学と生物学』 111 :  
169-171, 1985年

“Polymorphisms of genetic Markers in the Red Cell Antigen, Serum Protein

- and Red Cell Isozyme of the Cats. “『Jpn. J. Vet. Sci.』 47 : 317-320, 1985年
- “Further Evidence for Phenotype Frequencies of the Human type Blood Groups in the Chimpanzee (Pan troglodytes). “『Jpn. J. Vet. Sci.』 47 : 653-655, 1985年
- 「細管式等速電気泳動法を用いたヒト血清 Tf 型の検出『生物物理化学』 30 : 179-184, 1986年
- 「島根県中部山間部集団の血液系遺伝的多型性形質の遺伝子構成について」『医学と生物学』 112 : 261-264, 1986年
- 「細管式等速電気泳動法による自己免疫性貧血患者の赤血球 Dispace 処理液ならびに血清の分析」『生物物理化学』 30 : 247-250, 1986年
- “Genetic polymorphisms of human parotide salivary proteins, Pa and Pr detected by two-dimentional gel electrophoresis.” 『Physico-Chem. Biol.』 30 : 295-300, 1986年
- 「ミクロ二次元電気泳動法によるイヌ血清 Hp 型, Gc 型の判定」『日畜会報』 57 : 873-876, 1986年
- 「日本における植物性凝集素を用いた動物の血液型分類に関する研究の現状」『畜産の研究』 40 : 693-699, 1986年
- 「自治医科大学 1 期生から 11 期生の血液型, 特に表現型出現頻度と遺伝子型」『自治医科大学紀要』 9 : 155-161, 1986年
- 「岐阜県山間部住民の血清蛋白質型」『医学と生物学』 115 : 119-121, 1987年
- 「イヌ血清ハプトグロビンの細管式等速電気泳動法による観察」『専修自然科学紀要』 19 : 1-8, 1988年
- 「ウマ血清 Transferrin の細管式等速電気泳動およびミクロ 2 次元電気泳動法による観察」『生物物理化学』 32 : 45-48, 1988年
- 「各種布地に付着した血痕の反射分光分析的検討」『科学警察研究所報告』



- 41 : 173-181, 1989年  
「血清トランスフェリンの比較生物学的研究」『専修自然科学研究会報』  
49 : 6-15, 1989年  
「細管式等速電気泳動法によるイヌ血清ハプトグロビンの定性・定量につ  
いて」『比較臨床血液研究会誌』1 : 31-41, 1989年  
「植物性凝集素（レクチン）と動物赤血球の親和性について」『専修自然科  
学研究会報』50 : 16-23, 1989年  
「マウス唾液・顎下腺に見られるテストステロン依存性蛋白質のマイクロ 2  
次元電気泳動法による検出」『専修自然科学紀要』20 : 29-37, 1989年  
「植物種子抽出液に見いだされた植物種属識別能」『医学と生物学』119 :  
161-163, 1990年  
「揮発性布地における血痕の洗い落ちについて」『法医学の実際と研究』  
32 : 99-110, 1990年  
「種子レクチンの動物血清への親和性に関する基礎的研究」『専修自然科学  
紀要』21 : 35-44, 1990年  
「エンジュレクチンについて」『専修自然科学研究会報』54 : 21-27, 1990年  
「カイワレ大根種子沈降素とイヌ血清との親和性ならびに沈降素の性状に  
ついて」『専修自然科学紀要』22 : 33-38, 1991年  
“Erythroid differentiation of K-562 cell induced by Ethidium Bromide.”  
『Leukemia Research』15 : 373-379, 1991年  
「ヒト精漿蛋白質のマイクロ 2 次元電気泳動法および細管式等速電気泳動法  
による個人識別」『生物物理化学』35 : 59-65, 1991年  
「ニホンウズラの生理遺伝学的研究 1. 卵白・卵黄と血清蛋白質の各種  
電気泳動法による比較」『専修自然科学紀要』23 : 27-32, 1992年  
「細管式等速電気泳動法によるヒト血清ハプトグロビン量の定量について」  
『専修自然科学研究会報』56 : 44-50, 1992年

- 「免疫抗体産生中のウサギ血清タンパク質成分変動の電気泳動法による観察」『専修大学自然科学研究会会報』58：1-9, 1993年
- 「カサギレクチンによるイヌの血液型分類法（第1報）」『日本比較臨床血液学会誌』2：66-73, 1993年
- 「ネコ血清タンパク質のTFおよびGC多型性とHPの量的差異」『日本比較臨床血液学会誌』3：36-43, 1994年
- 「イヌ血清のLDH, ALP活性とアイソザイムについて」『専修自然科学紀要』27：17-24, 1996年
- 「イヌ血清トランスフェリン型の遺伝的多型性について」『日本比較臨床血液学会誌』4.2：20-26, 1996年
- “Electrophoretic Study of Lactate Dehydrogenase and Alkaline Phosphatase Isoenzymes of the Mongolian Gerbil (*Meriones unguiculatus*)” 『J. Vet. Med. Sci.』58 (5) 401-406, 1996年
- “Genetic polymorphism of Cat (*Felis catus*) Plasma Orosomucoid” 『Biochem. Genet.』35：303-314, 1997年
- 「ネコのミトコンドリアDNAのチトクロームbの塩基配列の解説」『専修自然科学紀要』29：53-56, 1998年
- 「オセアニア地域のネコ血漿TF型とGC型の遺伝的多型性」『専修自然科学紀要』30：33-40, 1999年
- 「日本で飼育されているネコ血漿ORM, TF, GCおよびATⅢの遺伝的多型性」『日本比較臨床血液学会誌』7 (2) 33-40, 1999年
- 「日本で飼育されているネコの赤血球酵素6-PGD, ESDおよびPHIの遺伝的多型性について」『専修自然科学紀要』31：15-19, 2000年
- 「トラの血液型と血漿タンパク質の多型性について」『専修自然科学紀要』32：43-48, 2001年
- 「SDS-マイクロ2次元電気泳動法により検出されたネコ血漿IgG域の個体

差について」『専修自然科学紀要』33：51-56, 2002年

「ネコ血漿酸性域タンパク質スポットの個体差」『専修自然科学紀要』35：39-42, 2004年

「電気泳動で見るネコ血漿フィブリノーゲン像」『専修自然科学紀要』36：19-23, 2005年

「ネコ血漿ポリペプチドの変性ゲルによる2次元電気泳動パターン」『専修自然科学紀要』38：17-20, 2007年

「日本で採集された野生由来近交系マウスのマイクロサテライトマーカーの比較」『専修大学自然科学紀要』42：5-10, 2011年

「マウスの発生、成長の透明骨格標本による観察」『専修大学自然科学紀要』43：1-6, 2012年

「シャチ・イルカおよびタヌキ血漿の電気泳動パターンの観察」『専修大学自然科学研究所所報』98：1-4, 2017年

〔総説・依頼原稿〕

〔依頼原稿〕

「実験動物の赤血球型」『遺伝』37：47-55, 1983年

「タンパク質の細管式等速電気泳動分析」『鳥津科学機械ニュース』27：12-17, 1986年

〔総説〕

「鳥類（ニワトリ）の血液型と日本鶏の分化」『Viva Origin』22（3）163-171, 生命の起原および進化学会, 1994年

「電気泳動でわかる動物の遺伝標識」『日本比較臨床医学会誌』11：2. 56-68, 2003年

## 〔その他〕

教養演習「身近な生命を探ろう」…2年間を振り返って『専修自然科学研究会報』52：18-28, 1990年

「日本最南端の町 沖縄県竹富町への健康調査の旅のこぼれ話」『専修大学自然科学研究会報』58：10-16, 1993年

「アウシュヴィツ強制収容所を訪ねて」『専修大学自然科学研究所報』79：15-18, 2004年

## 〔学会発表〕

「ニホンウズラの蛋白質およびアイソザイムに関する生理遺伝学的研究(1) 血清プレアルブミン, トランスフェリンおよび $\alpha$ 2-グロブリンの多型について」, 家禽学会1972年春季大会要旨8, 1972年

「ニホンウズラの蛋白質およびアイソザイムに関する生理遺伝学的研究(2) 血清中のアルカリ性ホスファターゼ・アマラーゼ・エステラーゼアイソザイムについて」家禽学会1972年春季大会要旨9, 1972年

「ニホンウズラの蛋白質およびアイソザイムに関する生理遺伝学的研究(3) 肝臓エステラーゼアイソザイムの変異」家禽学会1972年秋季大会要旨14, 1972年

「免疫動物およびヒト脾細胞のロゼット形成について」第59次日本法医学会総会, 『日法医誌』29：248, 1975年

「植物の種子・花・根・果実などの凝集素と沈降素について」第44回日本法医学会関東地方会, 『日法医誌』380, 1975年

「蛋白質分解酵素の免疫抗体作製法について」第44回日本法医学会関東地方会, 『日法医誌』32：234, 1977年

「唾液の新しい遺伝標識に関する研究Ⅲ Pa, Pb, Pr, Db, PmFおよびAmy1システムの日本人における遺伝子頻度と親子鑑定への応用につ

- いて」第61次日本法医学会総会、『日法医誌』32：387, 1977年
- “Individual Differences with in Animal Blood Groups Detected by Lectins.”  
『Proc. the 16th Int. Conf. animal Blood Groups Biochem.』8, 1978年
- 「血液系遺伝標識の比較遺伝学的研究(4) チンパンジーとカニクイザルのリンパ球と赤血球のヒト血液型判定用抗体に対する抗原性」『第86回獣医学会要旨集』58, 1978年
- 「根菜類に含まれる植物性凝集素ジャガイモウマ血球凝集素とウマ赤血球膜蛋白の免疫化学的検討」『産学会第68回大会要旨』83, 1978年
- 「唾液の新しい遺伝標識の親子鑑定への応用例」第62次日本法医学会総会、『日法医誌』32：457, 1979年
- 「HLA 型の調査について— HLA 抗原の出現頻度と HLA 抗体に対する霊長類リンパ球の反応—」第63次日本法医学会総会、『日法医誌』33：529, 1979年
- 「血液系遺伝標識の比較遺伝学的研究(6) ネコの赤血球型について」『第87回獣医学会要旨集』59, 1979年
- 「精液の個人識別に関する研究(1) 各種電気泳動法による精液(漿)の泳動像について」第64次日本法医学会総会『日法医誌』34：441, 1980年
- 「血液のホルマリン処理による血液型検査におよぼす影響—特に抗体活性の消失—」第48回日本法医学会関東地方会、『日法医誌』34：138, 1980年
- 「Di (a + b -) 型の婦人の血清中に認められた抗 Di 抗体と思われる例について」第25回日本輸血学会、『日輸血誌』26：199, 1980年
- 「栃木県に在住する日本人の Duffy 式血液型出現頻度」第26回日本輸血学会、『日輸血誌』26：265, 1980年
- 「血液系遺伝標識の比較遺伝学的研究(7) 警察犬の唾液に含まれる血液型抗原性について」『第89回獣医学会要旨集』180, 1980年

- 「血液系遺伝標識の比較遺伝学的研究(8) ネコおよびタヌキの血球酵素・血清蛋白の遺伝標識について」『第90回獣医学会要旨集』49, 1980年
- 「精漿の disc 電気泳動健にみられる個体差」第30回電気泳動学会春季大会, 『生物物理化学』24:255, 1980年
- 「糖尿病患者唾液の電気泳動像」第31回電気泳動学会春季大会, 『生物物理化学』25:205, 1981年
- 「精漿の個人識別に関する研究(2) 個人変異を示す精漿の性質について」第65次日本法医学会総会, 『日法医誌』36:166, 1982年
- 「血液系遺伝標識に関する比較遺伝学的研究(11) チンパンジーの血液型」『第93回獣医学会要旨集』51, 1982年
- 「赤血球膜および血清蛋白質に種属特異性を示す植物性凝集素」日本畜産学会, 『第73回大会要旨』175, 1982年
- 「血統系遺伝標識の比較遺伝学的研究(12) イヌ・ネコの血液系遺伝標識の親子鑑定における応用」『第94回獣医学会要旨集』54, 1982年
- 「Sjogren's syndrome 患者耳下腺唾液の電気泳動健について」第32回電気泳動学会春季大会 『生物物理化学』26:21, 1982年
- 「Monoclonal ant-A よりみた部分抗原」第66次日本法医学会総会, 『日法医誌』36:99, 1982年
- 「指紋によっても否定された親子鑑定例」第66次日本法医学会総会, 『日法医誌』36:1028, 1982年
- 「全唾液に含まれる遺伝性蛋白の電気泳動法による検索」第33回電気泳動学会秋季大会, 『生物物理化学』26:317, 1982年
- 「血痕からの血液型検査におけるモノクロナール抗体の意義」第51回日本法医学会関東地方会 『日法医誌』37:291, 1983年
- 「精漿の個人識別に関する研究(3) 精漿の酸性蛋白質の個人差について」第67次日本法医学会総会, 『日法医誌』37:627, 1983年

- 「血痕からの血液型検出における monoclonal antibody の使用の意義」第67次日本法医学会総会、『日法医誌』37：645, 1983年
- 「布地撥水性の血痕付着及びその洗濯に及ぼす影響について」第52回日本法医学会関東地方会、『日法医誌』38：117, 1983年
- 「血液系遺伝標識に関する比較遺伝学的研究(13) Monoclonal anti-A および anti-B に対する動物血球の反応」『第95回獣医学会要旨集』, 1983年
- 「イヌ血清ハプトグロブリン型について」『畜産学会第74回大会要旨』89, 1983年
- 「イヌ血清酸性蛋白質の遺伝的変異のイソタコフォーレシスによる検出」『第3回細管式等速電気泳動分析シンポジウム講演要旨集』31, 1983年
- 「Monoclonal anti-body を用いた chimpanzee の血液型分類」『第97回獣医学要旨集』, 1984年
- 「精液の個人識別に関する研究(4) 精漿の細管式等速電気泳動法による分析について」第68次日本法医学会総会『日法医誌』38：639, 1984年
- 「Monoclonal anti-A, anti-B, anti-H, anti-N および anti-Le の法医学的応用」第68次日本法医学会総会、『日法医誌』38：737, 1984年
- 「等速電気泳動法による鼻汁蛋白成分の研究」第34回電気泳動学会春季大会、『生物物理化学』28：121, 1984年
- 「血液系遺伝標識の比較遺伝学的研究(15) チンパンジー赤血球型の合成」『第98回獣医学会要旨集』, 1984年
- 「Monoclonal anti-globulin A および B と推定された抗体のクローニング」『第53回日本法医学会関東地方会例会要旨集』21, 1984年
- 「細管式等速電気泳動法による鼻汁アレルギーモデル鼻汁蛋白成分の研究」『第4回細管式等速電気泳動分析シンポジウム講演要旨集』37-38, 1984年
- 「血液系遺伝標識の比較遺伝学的研究(17) バンドウイルカの赤血球型」

- 『第100回日本獣医学会演題抄録集』 151, 1985年
- 「細管式等速電気泳動法によるアレルギー性鼻炎罹患・TDI被曝作業者鼻汁の分析」『第35回電気泳動学会春季大会抄録号 生物物理化学』 29:110, 1985年
- 「等速電気泳動法及び銀染色法によって検出される耳下腺唾液蛋白の変異型」『第69次日本法医学会総会 講演要旨』 150, 1985年
- 「ウマ血清の稀な Tf 型について」『日本畜産学会第77回大会 講演要旨』 122, 1985年
- 「精漿の個人識別に関する研究(5) ミクロ二次元電気泳動法による精漿蛋白の個体差」『第69次日本法医学会総会 講演要旨』 59, 1985年
- 「細管式等速電気泳動法による Tf と Hp の検出」『第35回電気泳動学会春季大会抄録号 生物物理化学』 29:108, 1985年
- 「血液系遺伝標識の比較遺伝学的研究(18) バンドウイルカ及びシャチの赤血球酵素及び血清蛋白質型について」『第100回日本獣医学会 演題抄録集』 125, 1985年
- 「細管式等速電気泳動法によるアレルギー性鼻炎モデルの涙液蛋白成分の検討」『第5回等速電気泳動シンポジウム講演要旨集』 47-48, 1985年
- 「CITPによる精漿蛋白質の分析について」『第5回等速電気泳動シンポジウム講演要旨集』 49-50, 1985年
- “Studies of Genetic Markers in the Blood of the Bottorose Dolphine.” 『10th World Cong. World Small Anim. Vet. Asso., Abst.』 108, 1985年
- 「血液系遺伝標識の比較遺伝学的研究第19報 イヌの骨髄移植における血清蛋白質の挙動について」『第101回日本獣医学会 演題要旨集』 49, 1986年
- 「精液の個人識別に関する研究(6) 二次元電気泳動パターンについて」『第70次日本法医学会総会 講演要旨集』 82, 1986年



- 「テストステロン依存性マウス唾液蛋白質の基礎的検討」, 家畜繁殖学会第70回大会, 1986年
- 「パラコート剤投与犬血清の電気泳動的観察」『第101回日本獣医学会 演題要旨集』, 1986年
- 「イヌ血清ハプトグロビンの細管式等速電気泳動法による観察」『第6回細管・等速電気泳動シンポジウム 講演要旨集』43-44, 1986年
- 「揮発性を付与された各種布地血痕の洗い落ちについて」第71次日本法医学会総会187, 1987年
- 「Monoclonal 抗M, 抗Nの作製」第71次日本法医学会総会220, 1987年
- 「細管式等速電気泳動法による精漿蛋白質の定量について」第37回電気泳動学会春季大会, 『生物物理化学』31:100, 1987年
- 「マウス顎下腺のテストステロン依存性について」家畜繁殖学会第72回大会, 1987年
- 「細管式等速電気泳動法による血清トランスフェリンの比較生物学的検討」『第7回細管・等速電気泳動シンポジウム (東京) 要旨集』37-38, 1987年
- 「Monoclonal 抗体と Flowcytometry を用いた血痕の血液型検査」第72次日本法医学会総会132, 1988年
- 「マウス顎下腺のテストステロン依存性蛋白質の電気泳動法による観察」第38回電気泳動学会春季大会, 『生物物理化学』32:18, 1988年
- 「イヌ血清のハプトグロビン型の判定とハプトグロビンの量的変動について」『第3回比較臨床血液研究会 講演要旨』10-11, 1988年
- 「植物種子抽出液の沈降素活性と細管式等速電気泳動法による植物種子の種属鑑別について」第8回電気泳動シンポジウム (細管・等速電気泳動), 1988年
- 「アブラナ科植物種子抽出液とイヌ血清の親和性に関する電気泳動法によ

る観察」第39回電気泳動学会春季大会, 『生物物理化学』 33 : 86, 1988年

“Studies on the removal of blood stains on various water repellent or softening cloth through washing. “『3rd Indo-Pacific Congress on Legal Medicine and Forensic Science. (Madoras, Indo)』 78, 1989年

“Individual difference of human Seminal Plasma Protein detected by micro two-dimensional polyacrylamide gel electrophoresis.” 『3rd Indo-Pacific Congress on Legal Medicine and Forensic Science. (Madras, Indo) 』 126, 1989年

「細管式等速電気泳動法による免疫ウサギ血清の観察」『第9回電気泳動シンポジウム (細管・等速電気泳動)』 35-36, 1990年

「Monoclonal anti-glycolipid を用いた人獣血鑑別の可能性」『第74次日本法医学会総会講演要旨』 218, 1990年

「K-562細胞の分化 (第2報) DNA の intercalating agent によるベンチジン陽性細胞の誘導について」第52回日本血液学会総会, 『日本血液学会誌』 53 : 129, 1990年

「ニホンウズラの卵白・卵黄並びに血清蛋白質の各種電気泳動法による観察」第10回キャピラリー電気泳動シンポジウム, 1990年

「クサギレクチンによって分類されるイヌの血液型 第1報」『第9回日本比較臨床血液研究会 要旨集』 26-27, 1991年

「ラット顎下腺組織に含まれる赤白血病細胞分化誘導因子の性状について」第54回日本血液学会総会, 『日本血液学会誌』 55補冊1, 227, 1992年

“Erythroid differentiation of K-562 cells induced by the extract from rat submandibular glands.” 第21回国際実験血液学会 『Exp. Hematology』 20 : 6, 765, 1992年

「小動物の血液型・タンパク質多型の臨床利用への基礎的検討1. ネコの

- 血清タンパク質の電気泳動法による観察」第11回比較臨床血液学会，1992年
- 「小動物の血液型・タンパク質多型の臨床利用への基礎的検討 2. イヌ血清タンパク質の電気泳動法による観察と Tf 型について」第11回比較臨床血液学会，1992年
- 「小動物の血清タンパク質の遺伝的多型性について」第12回キャピラリー電気泳動シンポジウム99-100，1992年
- 「Chloroquine による HL-60細胞株の好塩基球への分化誘導」『第55回日本血液学会総会 International J. Hematology』57：8，1993年
- 「ネコ血清タンパク質の遺伝的多型性について」第43回電気泳動学会春季大会，『生物物理化学』37：51，1993年
- 「イヌ血清 ALP，LDH アイソザイムについて」第14回日本比較臨床血液学会，19-20，1994年
- 「スナネズミの血清酵素アイソザイムパターンについて」第16回日本比較臨床血液学会，11-12，1995年
- 「ネコの血液系遺伝標識に関する研究 1. 血漿オロソムコイドの遺伝的多型性」『第20回日本比較臨床血液学会 講演要旨』23，1997年
- 「ネコ血漿オロソムコイドの遺伝的多型性について」第47回日本電気泳動学会春季大会，『生物物理化学』41 (2) 65，1997年
- 「ネコ血漿 TF，GC 型の遺伝的多型性について」第48回日本電気泳動学会総会，『生物物理化学』41 (5) 257，1997年
- 「ネコの血液系遺伝標識に関する研究 2. 血漿 TF，GC 型の遺伝的多型性」『第21回日本比較臨床血液学会 講演要旨』8-9，1997年
- 「ネコの血漿 ORM 型，TF 型および GC 型の遺伝的多型性について」『第17回キャピラリー電気泳動シンポジウム講演要旨集』69-70，1997年
- 「ネコの血液系遺伝標識に関する研究 3. 日本で飼育されているネコの血

- 漿 ORM, TF および GC の遺伝的多型性」『第22回日本比較臨床血液学会講演要旨集』18-19, 1998年
- 「日本のネコの血漿 ORM, TF, GC および AT Ⅲ の遺伝的多型性について」第9回日本電気泳動学会総会, 『生物物理化学』42補冊2, 26, 1998年
- 「トラの血液型と血漿タンパク質の多型性について」第25回日本比較臨床血液学会, 1999年
- 「日本で飼育されているネコの赤血球酵素型の多型性について」第50回日本電気泳動学会総会, 1999年
- 「マイクロ2次元電気泳動法によるネコ血漿 IgG 領域の個体変異について」『第51回日本電気泳動学会総会抄録号43, 2000年
- 「日本で飼育されているネコの血漿タンパク質と血球酵素型の遺伝的多型性について」『第20回電気泳動シンポジウム2000要旨集』160-161, 2000年
- 「ネコ血漿 IgG 域の変異（個体差）について」『第29回日本比較臨床血液学会講演抄録集』68, 2001年
- 「SDS-マイクロ2次元電気泳動法により検出されたネコ血漿 IgG 域の個体差について」『第21回キャピラリー電気泳動シンポジウム要旨集』107-108, 2001年
- 「マイクロ2次元電気泳動法で観察するネコ血漿タンパク質の個体差」『第32回日本比較臨床医学会講演要旨集』1, 2003年
- 「電気泳動で見るネコ血漿フィブリノーゲン像」『第34回日本比較臨床医学会講演要旨集』5, 2004年
- 「吉田治弘：多様な血液型の意味を探る」第5回専修大学自然科学研究所公開講演会, 2005年
- 「ネコ血漿ポリペプチドの変性ゲルによる2次元電気泳動パターン」『本比較臨床医学会第37回学術集会要旨集』16, 2007年

「日本産野生マウス由来の近交系間の染色体マイクロサテライトマーカーの差異」『第61回日本電気泳動学会総会抄録号 生物物理化学』54：10, 2010年

**[特別講演]**

**[特別講演]**

「タンパク質の等速電気泳動と応用」日本分析化学会, 日本液体クロマトグラフィー研究懇談会特別講演会, 1986年

「細管式等速電気泳動法の血清, 精漿蛋白質多型研究への利用」『第6回細管・等速電気泳動シンポジウム 講演要旨集』39, 1986年

テーマポスターセッションプログラム：「ヒトと動物の赤血球酵素・血漿タンパク質多型」第50回日本電気泳動学会総会, 1999年

「食と健康の基礎～日本人の食生活と体格・寿命の推移～」『第43回日本比較臨床医学会学術集会 講演要旨集』12, 2012年

**[学会・公開講演会開催]**

第9回電気泳動シンポジウム（細管・等速電気泳動）実行委員長, 専修大学神田校舎, 1990年12月

第32回日本比較臨床医学会大会長および第1回専修大学自然科学研究所公開講演会, 専修大学神田校舎, 2003年6月

第5回専修大学自然科学研究所公開講演会コーディネーター, 専修大学生田校舎, 2005年7月

第43回日本比較臨床医学会大会長ならびに第15回専修大学自然科学研究所公開講演会, 専修大学生田校舎, 2012年7月